

監督・脚本・編集 是枝裕和

ワンダフルライフ

ARATA 小田エリカ 寺島進 内藤剛志 谷啓 由利徹 横山あきお 原ひさ子 白川和子 山口美也子 伊勢谷友介 吉野紗香

木村多江 平岩友美 志賀廣太郎 石堂夏央 阿部サダヲ 香川京子(註) 内藤武敏 荒木一二 大熊ミチ 奥野真一郎 遠藤邦生 金子良隆 金桂玉

郡ヨネ 児島真顕 高橋輝政 高松知江 多々羅君子 野本俊雄 平川奈々江 文堂太郎

製作・配給：テレビマンユニオン／エンジンフィルム／製作協力：イマジカ／宣伝：ザナドゥー



あなたの人生の中から大切な思い出をひとつだけ選んで下さい。



人は亡くなってから天国へいくまでの7日間で『映画』を撮ります。自分の思い出をフィルムに焼き付けるために

95年『幻の光』でヴェネチア映画祭・金のおセッラ賞を受賞した是枝裕和監督待望の第二作『ワンダフルライフ』。98年秋、トロント映画祭で鮮烈なワールドプレミアを経て以来、世界的に大きな注目を浴びており、フランスのナント三大陸映画祭ではグランプリ受賞、スペインのサン・セバスチャン映画祭で国際映画批評家連盟賞、イタリアのトリノ映画祭で最優秀脚本賞など、各国で高い評価を受けている。また99年、サンダンス、ロッテルダム国際映画祭より正式招待された。

天国まであと7日…

月曜日。霧に包まれた古い建物に人々が吸い込まれていく。全部で22人。彼らは面接室に案内され、職員からこう告げられる。「あなたは昨日お亡くなりになりました。あなたの人生の中から大切な思い出をひとつだけ選んで下さい。いつを選びますか？」死者たちは天国に行くまでの7日間を、この施設で過ごすことになっている。死者たちが選んだ思い出は職員たちの手で撮影され、最終日には上映会が開かれるという。

火曜日。職員の望月（ARATA）、川嶋（寺島進）、杉江（内藤剛志）、しおり（小田エリカ）たちは死者から思い出を聞き出し、撮影の準備を進める。それが彼らのこの施設での仕事だ。生き別れになっていた恋人と再会した瞬間を選ぶ76歳の女性。子供の頃の夏休みの前日を選ぶ56歳の男性。女性経験ばかり話し続ける男性（由利徹）。友達とディズニーランドへ行ったことを話す少女（吉野紗香）。太平洋戦争中のフィリピンのジャングルを選ぶ85歳の男性。選ぼうとしない青年（伊勢谷友介）…etc。人それぞれにかけがえのない大切な思い出がある。

水曜日。望月が担当する死者のひとり渡辺（内藤武敏）は70歳。なかなか思い出を選ばずに困っている。「どうせなら…生きた証が分かるような出来事を選びたい」と自分の人生が録画された71本のビデオテープを見る渡辺。しかし、次々と映し出される自分の平凡な姿に幻滅するばかり。そんな時、渡辺の新婚生活の映像に眼を奪われる望月。その表情の変化をしおりは見逃さなかった。この夜を境に、望月、しおり、渡辺、それぞれの感情は大きく揺れ始めるのだった…

職員たちとカメラマン、美術スタッフが、死者の思い出を再現するための会議を開く木曜日。

スタジオに組まれたセットの中で思い出が撮影されていく金曜日。

そして土曜日、職員たちの演奏に見送られ、死者たちは思い出の再現映画を見届け、天国へと旅立っていく。

ファンタジーの世界で揺れ動く人々のリアルな感情…

職員の望月役には、現在最も注目されているモデルのひとりARATA。演技初体験ながら死者たちの話を聞き、その思い出を再現するという難しい役柄に挑んでいる。望月のアシスタントのしおり役には2800人を越えるオーディションの中から選ばれた小田エリカ。映画初主演のこのふたりに加え、『HANA-BI』など北野武監督作品には欠かせない寺島進、『幻の光』に続いて出演となる内藤剛志がそれぞれに個性を発揮。その他にもモデルとして活躍中の伊勢谷友介が新鮮なデビューを果たし、谷啓、香川京子、由利徹、内藤武敏らベテラン陣も独特の存在感をみせている。さらに死者役として、一般の人々が自分の人生の思い出を語っているのも大きなみどころのひとつ。彼らとプロの俳優たちとの共演が、味わい深い顔のコラージュを形作っている。

監督・脚本・編集：是枝裕和

スタッフ＝撮影：山崎裕／照明：佐藤謙／録音：滝澤修／美術：磯見俊裕・郡司英雄／音楽：笠松泰洋／スチール・撮影（再現）：鋤田正義／照明（再現）：中村茂樹／ポストプロダクション・スーパーバイザー：掛須秀一／音響効果：柴崎憲治／スタイリスト：山本康一郎／広告美術：葛西薫／プロデューサー：佐藤志保・秋枝正幸／企画：安田匡裕／セネラルプロデューサー：重延浩

製作・配給／テレビマンユニオン・エンジンフィルム

製作協力／イマジカ

宣伝／ザナドゥー 1998年／日本／カラー／ヨーロッパビスタ／118min.

『素晴らしいヒューマン・コメディー！』—L.A. WEEKLY

「人にとっての“記憶”や“慈愛”を描いたこの作品は、人間本来の優しさへの讃歌である。観る者は感動し、昂揚し、さらに観終った後も物語はそれぞれの記憶の中で成熟していく。」—ヴァリエティ

「フィクションなのかドキュメンタリーなのか… そんな古くさいジャンル分けをすることはこの作品にとってはナンセンスだ。」—ル・モンド

99年3月、是枝監督自ら書き下ろす『小説ワンダフルライフ』がハヤカワ文庫より、映画スチールを担当した鋤田正義写真集『映画ワンダフルライフ その登場人物たちと撮影現場の記録』が光琳社出版より発売。

ワンダフルライフ

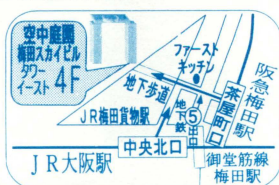
各国映画祭で大絶賛！是枝監督（「幻の光」）待望の最新作！

5月、いよいよロードショー予定！

前売鑑賞券絶賛発売中！ 一般：1,500円

（上映日程・上映時間は、劇場にお問い合わせ下さい。）

★初日舞台挨拶を予定！！



梅田スカイビルタワーファースト4F 06(6440)5977

梅田 ガーデンシネマ